

注：一、二は全員が解答。三、四はどちらか一題を選択して解答すること。

問題一 次の文章を読み、問い合わせに答えよ。

日本語の書き言葉は、連体修飾語が好きだ。連体修飾語をうまく使って複文にすることによって、二文で表現するものを一つにまとめることができる。そうすると、すっきりした印象になる。例えば、次のような文章はどう変えたらいいだろうか。

私はビーグル犬を飼っている。そのビーグル犬が、おじいさんに小便をかけた。おじいさんは激怒して、私をにらんだ。

主語と述語のある単文が三つ続いている。文法的には誤りはないが、どんな印象になるだろうか？ 幼稚な感じがするのではないか。もしくは、きわめて单调に感じるだろう。同じような構造が連續で出てくると、平板に感じられるのだ。

書き言葉の場合、実際にはこういう退屈な書き方は選択されない。例えば、次のようになるだろう。

私の飼っているビーグル犬が、おじいさんに小便をかけた。激怒したおじいさんは私をにらんだ。

こちらのほうが、だいぶすつきりしている。

「私はビーグル犬を飼っている。」とした場合、「ビーグル犬を飼っている。」は（1）と（2）だから、そこが伝えるべき情報の中心である。一方、「私の飼っているビーグル犬が」と連体修飾語になると、「私がビーグル犬を飼っていること」は（3）となる。背景情報となるのだ。

ところが、連体修飾語構造が大好きな日本語では、新しい情報も連体修飾語構造になる場合がある。今出した例文では「激怒したおじいさんは」の「激怒した」の部分だ。おじいさんが激怒したことは、ここで初めて出てくる新情報なのに、連体修飾語になつていてる。なぜか？

その前の文で、犬がおじいさんに小便をかけている。その出来事から、当然（4）されることが、「激怒した」という情報だ。その「小便をかけた→激怒した」という情報が隣接していることがわかる。情報がスムーズにつながっているので、読みやすい。このように、日本語では連体修飾語で（5）を進めることもできてしまうのだ。

また連体修飾語に関して、次のような形も出現する。

フェイスブックもツイッターもやらない私は

こういう例では、長い連体修飾語が名詞につく形になつていて、長くはなれないけれども、「私はフェイスブックもツイッターもやつてしません」と主述構造にするのと、伝えている情報としてはほとんど変わらない。しかし、「フェイスブックもツイッターもやらない私はです。」だと「私」を押し出しているのに対し、言い換えたほうは単にフェイスブックもツイッターもやつていないというほうに焦点が当たる。

私が長男を通わせている保育園では、先生が連絡帳に子供の様子を書いてくれるのだが、次のような形がよく使われている。

おやつが運ばれてくると、真っ先に駆け寄つてくるそうた君。お昼ごはんも完食し、先生の分まで欲しがっていました。

「そうた君」を最後に持つてきて、その前に連体修飾語をつけていて、なぜこのような形が採用されているのだろう。「そうた君はおやつが運ばれてくると、真っ先に駆け寄つてくるそうた君。」とすると、これ全体で一つのトピックの提示になつていて思われる。そして次に来る「お昼ごはんも完食し、先生の分まで欲しがっていました。」がそれに対するコメントになつていてることがわかる。

つまり、最後に置かれた「そうた君」が、次の文の（6）になつていて、この一つの「文」で一つであるかのようにふる

まつて いるのである。

日本語では和歌などを中心に、長い修飾語+名詞の形が広く使われてきた。この形式では、長い修飾語で表されるような属性を持つた最後に来る名詞にスポットが当たる。

しかし、主語以外の名詞にかかるそれが長くなりすぎると、読みにくい文章になってしまふ。主語と述語が遠く離れてしまふため、情報処理が難しくなつてしまふからだ。

私が読んできた文章の中でも、とりわけ読みにくかつた実例を次に挙げる。

オリュウノオバは生れた時からは予想もつかない色白で、どこの祭りの稚児に出しても羞じる事のないほどの、男親のヨシから中本の血を受けついだ美形の文彦が荒い息を吐きながら言うのをきいて、「鴉みたいな顔をして背中に羽根があつたかよ」とからかうと真顔でうなずき、丹鶴城から続いた路地の裏山の一等端の頂上にある大人の腕で二かかえほどの太い幹の松の根方に鴉天狗らは何人も車座をつくつて、文彦が雑木の茂みからのぞいているのに気づいて羽根を広げて宙に翔け上つたと言つた。²

(中上健次『千年の愉楽』)

これはまいった。一回ですんなり意味が取れたらすごい。

「オリュウノオバは生れた時からは予想もつかない色白で」のところまで読むと、「オリュウノオバ=色白」と読めそうなのに、そうではないからやっかいだ。

「生れた時からは予想もつかない色白で、どこの祭りの稚児に出しても羞じる事のないほどの」が「男親のヨシ」にかかる連体修飾語かな、とも思う。ところがさらに読み進めると、「生れた時からは予想もつかない色白で、どこの祭りの稚児に出

しても羞じる事のないほどの、男親のヨシから中本の血を受けついだ美形の」までが「文彦」にかかる連体修飾語であることが判明する。

長い。長すぎる。オリュウノオバについて話しているのかと思つて読み進めたら、実はヨシについて話している、かと思いきや、本当は文彦についての叙述なのだ。相当にねじれている。

「文彦」にかかっている連体修飾語を除くと、「オリュウノオバは文彦が荒い息を吐きながら言うのをきいて」となる。間をこれだけバツサリ切つても「文彦が荒い息を吐きながら言う」という B が埋め込まれているではないか！ I そこれから先もねじれにねじれているけれども、解説は省略する。

次のように書きかえるとどうか。

文彦は男親のヨシから中本の血を受けついだ美形で、どこの祭りの稚児に出しても恥じる事のないほどであった。その文彦が荒い息を吐きながら言うのを聞いて、オリュウノオバは、「鴉みたいな顔をして背中に羽根があったかよ」とからかつた。

どうだ。ずいぶん読みやすいのではないか。現在の規範的な「文」の書き方はこんな感じだ。 II 「どこの祭りの稚児に出しても羞じる事のないほど」なんてリズム、口に出してみてほしい。「の」が多い、多すぎる。

めちゃくちゃ読みにくくて頭がいたくなるのに、『千年の愉楽』の文章にはなぜか中毒性がある。 III

今挙げた中上健次の文は全部で二二二六文字もある。一文としては、素人はまず書かないほうがいい長さだ。

だが、一文が長ければ読みにくいというわけではない。ちゃんと規範にかなつていれば、長くても読みやすい。例えば太宰治も一文が長い作家であるが、読みにくくはない。『斜陽』から一例を挙げよう。

スウプのいただきかたにしても、私たちなら、お皿の上にすこしうつむき、そうしてスプーンを横に持つてスウプを掬^{すく}い、スプーンを横にしたまま口元に運んでいただくのだけれども、お母さまは左手のお指を軽くテーブルの縁にかけて、上体をかがめる事も無く、お顔をしゃんと挙げて、お皿をろくに見もせずスプーンを横にしてさつと掬つて、それから、燕^{つばめ}のように、とでも形容したいくらいに軽く鮮やかにスプーンをお口と直角になるように持ち運んで、スプーンの尖端^{せんたん}から、スウプをお唇のあいだに流し込むのである。

（太宰治『斜陽』）

この文は二三七文字もあり、先ほどの中上健次よりも長い。しかし読みにくくはないと思う。なぜなのか？

まず、主語に着目しよう。前半は「（7）」、後半は「（8）」だ。一度しか変わっていない。次に、接続の形式に着目しよう。前半部分、「すこしうつむき」「スウプを掬い」の「うつむき」「掬い」は、動詞の連用形が使われている。

文を切らずに続ける場合、最も単純な方法が、連用形でつなげる方式である。連用形は、前と後ろが単純に並列される形式である。

ではその次はどうなっているだろう。「口元に運んでいただくのだけれども」では、「けれども」で逆接の形が使われている。さらにその先の接続形式に着目すると、「かけて」「無く」「挙げて」「掬つて」と連用形でその連續する動作が表されている。「（9）」を境にして、前半と後半が分かれているということができる。（10）ではない形式を用いて接続することによって、そこまでが一つのまとまりであり、そこから先は変化があることを示しているのだ。

橋本陽介『文』とは何か 愉しい日本語文法のはなし』光文社新書 二〇二一〇 一部改

問一（1）～（5）に入る適切な語句を次の【語群】から選べ。

【語群】 展開 目的語 主語 予測 述語 前提

問二 波線部1「私」を押し出している」を次のように書き換えた。

答えよ。ただし句読点は含まない。

「私」に A。

問三（6）に入る適切な語句を次から選び、記号で答えよ。

- ① 実質的な目的語
- ② 実質的なトピック
- ③ 実質的な主語

問四 波線部2「言つた」のは誰か。文中から選び答えよ。

問五

B

に入る適切な語句（漢字四字）を文中から選び、答えよ。

問六

次の①～③は I III のいずれかに入る。

① だが、中上健次の文体が持つ怪しい響きは失われてしまう。

② すごいぞ、中上健次。

③ いくらなんでもやりすぎだぞ、中上健次。

I III に入る適切な文を記号で答えよ。

問七

（7）～（10）に入る適切な語句を文中から選び、答えよ。

問題二

次の文章を読み、問い合わせよ。

私は、七七八五一号の百円紙幣です。あなたの財布の中の百円紙幣をちょっと調べてみて下さいまし。あるいは私はその中に、はいっているかも知れません。もう私は、くたくたに疲れて、自分がいま誰の懐①の中にいるのやら、あるいは肩籠の中にでもほうり込まれているのやら、さっぱり見当も附かなくなりました。ちかいうちは、モダン型の紙幣が出て、私たち旧式の紙幣は皆焼かれてしまうのだとかいう噂も聞きましたが、もうこんな、生きているのだか、死んでいるのだかわからないような気持でいるよりは、いつそさっぱり焼かれてしまって昇天しどうございます。焼かれた後で、天国へ行くか地獄へ行くか、それは神様まかせだけれども、ひょっとしたら、私は地獄へ落ちるかも知れないわ。

時には、今みたいに、こんな賤Aしいていたらくではなかつたのです。後になつたらもう二百円紙幣やら千円紙幣やら、私よりも有難がられる紙幣がたくさん出て来ましたけれども、私の生れたころには、百円紙幣が、お金の女王で、はじめて私が東京の大銀行の窓口からある人の手に渡された時には、その人の手は少し震えていました。あら、本当ですわよ。その人は、若い大工さんでした。その人は、腹掛けのどんぶりに、私を折り畳まずにそのままそつといれて、おなかが痛いみたいに左の手のひらを腹掛けに軽く押し当て、道を歩く時にも、電車に乗っている時にも、つまり銀行から家へ帰りつくまで、左の手のひらでどんぶりをおさえきりにおさえていました。そうして家へ帰ると、その人はさつそく私を神棚にあげて拝みました。私の人生への門出は、このように幸福でした。

それから私は五年間四国、九州と渡り歩き、めつきり老け込んでしまいました。そうしてしだいに私は軽んぜられ、六年振りでまた東京へ舞い戻った時には、あまり変り果てた自分の身のなりゆきに、つい自己ケンオ②しちゃいましたわ。東京へ帰つて来てからは私はただもう闇屋の使い走りを勤める女になつてしまつたのですもの。

五、六年東京から離れているうちに私も変りましたけれども、まあ、東京の変りようつたら。夜の八時ごろ、ほろ酔いのブ

ローカーに連れられて、東京駅から日本橋、それから京橋へ出て銀座を歩き新橋まで、その間、ただもうまつ込んで、深い森の中を歩いているような気持で人ひとり通らないのはもちろん、路を横切る猫の子一匹も見当りませんでした。おそろしい死の街の不吉な形相⁽³⁾を呈していました。それからまもなく、れいのドカンドカン、シュウシュウがはじまりましたけれども、あの毎日毎夜の大混乱の中でも、私はやはり休むひまもなくあの人の手から、この人の手と、まるでリレー競走のバトンみたいに目まぐるしく渡り歩き、おかげでこのような皺くちやの姿になつたばかりでなく、いろいろなもの臭氣がからだに附いて、もう、恥ずかしくて、やぶれかぶれになつてしましました。あのころは、もう日本も、やぶれかぶれになつていた時期でしょうね。

私がどんな人の手から、どんな人の手に、何の目的で、そうしてどんなむごい会話をもつて手渡されていたか、それはもう皆さんも、十二分にご存じのはずで、聞き飽き見飽きていらっしゃることでしょうから、くわしくは申し上げませんが、けだものみたいになつていたのは、軍閥とやらいうものだけではなかつたように私には思われました。それはまた日本人に限つたことではなく、E 一般の大問題であろうと思いますが、今宵死ぬかも知れぬという事になつたら、物慾も、色慾も、綺麗に忘れてしまうのではないからとも考えられるのに、どうしてなかなかそのようなものでもないらしく、人間は命のフクロコウジに落ち込むと、笑い合わずに、むさぼりくらい合うものらしうございます。この世の中のひとりでも不幸な人のいる限り、自分も幸福にはなれないと思う事こそ、本当の人間らしい感情でしょうに、自分だけ、あるいは自分の家だけの東の間の安樂を得るために、隣人を罵り、あざむき、押し倒し、（いいえ、あなたたつて、いちどはそれをなさいました。無意識でなさつて、ご自身それに気がつかないなんてのは、さらに怒るべき事です。恥じて下さい。人間ならば恥じて下さい。恥じるというのは人間だけにある感情ですから）まるでもう地獄の亡者がつかみ合いの喧嘩をしているような滑稽⁽⁵⁾でヒサンな図ばかり見せつけられてまいりました。

問一 傍線部①～⑥のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 傍線部A 「ていたらく」の意味としてふさわしいものを次から選び、番号で答えよ。

- ① 老いた存在
- ② 好ましくない様子
- ③ 汚らしい身体
- ④ だらしない服装
- ⑤ 同情したくなる身の上

問三 傍線部B 「まるでリレー競走のバトンみたいに」の比喩の種類を次から選び、番号で答えよ。

- ① 直喻
- ② 暗喻
- ③ 換喻
- ④ 提喻
- ⑤ 讽喻

問四 傍線部C 「やぶれかぶれ」にもつとも近い意味の語句を次から選び、番号で答えよ。

- (1) 支離滅裂
- (2) 万事休す
- (3) 破天荒
- (4) 自暴自棄
- (5) 我田引水

問五

傍線部D 「けだものみたいになつていた」とは、「私」が具体的にどのような行為を見聞きしたことを指しているか。本文の言葉を使って、15字前後で表現せよ。

問六

E

にふさわしい語句を次から選び、番号で答えよ。

- (1) 大衆性
- (2) 時代性
- (3) 地域性
- (4) 普遍性
- (5) 人間性

問七 「私」がこの手記の読み手に伝えようとしている思いとしてふさわしい内容を次から選び、番号で答えよ。

- ① 百円紙幣が貨幣の中心であった時代の幸福を懐かしみ、皆がものを大切にし人を思いやつていた時代に戻るべきと
いうこと

- ② 百円紙幣を大事にしない時代になつたのは、国家の利益を重んじいつこうに戦争をやめようとしない軍閥にあると
いうこと

- ③ 戦争が繰り返される世の中にあって、争わず助け合い平和に生きられる時代が早くきて欲しいということ

- ④ 人は窮地に陥ると物欲や色欲にまみれてただ自己の利益をむさぼる愚かな生き物であるということ

問八 太宰治と同時代の作家（作品発表時期が同時期）を次から選び、番号で答えよ。

- ① 夏目漱石
② 有島武郎
③ 坂口安吾
④ 大江健三郎
⑤ 村上春樹

問題三

次の文章を読み、問い合わせに答えよ。

「サラリーマンと商店街」で成り立っていた戦後日本の安定したコヨウ^①に対して、まず打撃が加えられたのは、商店街であつた。一九八〇年代からおこなわれていた規制カンワ^②は一九九〇年代に入つてさらに徹底化され、それに伴い、自営業者たちは大企業とのむき出しの競争関係に入つていった。象徴的なのは、大規模小売店舗の規制を目的とした大規模小売店舗法（略称、大店法）の改正から廃止へと向かう流れで、その結果、地方都市にはショッピングセンターがあふれ、商店街は衰退の一途を辿ることとなつた。零細な小売業者の既得権益に対する批判は戦後、一貫しておこなわれていたが、一九九〇年代の規制カンワは、それにとどめをさしたのである。

私の生まれ育つた岐阜市でも、一九九〇年代、商店街は衰退していく一方でコウガイ^③には巨大なショッピングセンターが次々と出来て、人々はそこで買い物をするようになつていていた。こうしたなかで、ヤンキーたちの「親の跡を継ぐ」という将来プランは現実性の乏しいものとなつていった。

しかし、自営業への道が閉ざされたとしても、コヨウさえ安定していれば問題ないだろう。だが、その道もA^④の崩壊によつて怪しいものとなつていく。高校新卒者の求人倍率の推移を見ていくと、一九九二年の三・〇八倍から坂を下るようにならはじめ、一九九九年には一倍を切つて〇・九八倍、二〇〇〇年には〇・六二倍まで落ち込んだ。大学新卒者の求人倍率も、一九九一年の二・八六倍から落ち込み、一九九六年には一・〇八倍、二〇〇〇年には一倍を切つて〇・九九倍にまで落ち込んだ。

私は二〇〇〇年に大学を卒業しているのだが、当時の新卒就職の状況の冷え込み方は半端なく、特に女子学生に関しては、就職先を見つけるのに多分に苦労していたと記憶している。これまでの「大学を卒業して企業に就職して一生安泰」^⑤という予期は、社会に出る直前に見事に裏切られたのである。

その代わり、当時喧伝された⁽¹⁾のが、一九九五年の「NPO元年」、「IT元年」を経て生まれつあつた「新しい働き方」である。大企業で企業戦士になるのではなくNPOで社会のために働く、企業に雇われるのではなく、趣味の延長線上にあるITの知識をいかして複数の企業を股にかけるフリーランスのITエンジニアとして働くなど、一九九〇年代の後半はこれまでは違つた新しい働き方が模索された時期でもあつた。

当時のことを思い出すと、就職は厳しいが、不思議なことにそれほどの悲壮感は漂つていなかつたようだ。それは、こうした「新しい働き方」^Bがオルタナティブとして提示されていたからであつた。しかもそれは、若者たちが批判してきた官僚制的な働き方とは真逆にあるものであつた。安定してはいないが「やりがい」のある仕事。若者たちはこうした新しい仕事のあり方に惹かれてはいつた。一九九〇年代、「安定からやりがいへ」と、人々の労働観は変化してはいつたのである。

しかし二〇〇〇年代、それらの職種が若者にとつて「希望」などではなくかつてよりもさらに過酷なものであることが明らかになつていく。「やりがい」にあふれる「新しい働き方」の裏にあるのは低賃金の長時間労働で、「やりがい搾取」⁽²⁾⁽⁵⁾の温床であることが明らかになるのに、それほど時間はかからなかつたのである。

阿部真大「安定からやりがいへ」大澤聰編『1990年代論』 河出ブックス 二〇一七年

問一 傍線部①～⑤のかたかなは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二

A

におぎなうのにふさわしい語句を次から選び、番号で答えよ。

- ① 高度経済
- ② いざなみ経済
- ③ 自由経済
- ④ バブル経済

問三

傍線部

(1) 「喧伝」、(2) 「搾取」の意味をそれぞれの選択肢から選び、番号で答えよ。

- (1) 喧伝 ① やかましく言い立てること

② 世間に広く知らせること

③ 高らかに歌いあげること

④ 誇張して言うこと

- (2) 搾取

① 権力者が立場の弱い人から利益を不正に奪うこと

② やる気のある働き手が条件の良い仕事を手に入れること

③ 希望をもつて労働にいそしむ人がやる気をなくすこと

④ 若者が過酷な労働環境に不満を抱くようになること

問四 傍線部B「オルタナティブ」の反対語を次から選び、番号で答えよ。

- ① 安定した
- ② 新奇な
- ③ 主流の
- ④ 固定した
- ⑤ 希望のある

問五 傍線部C「官僚制的な働き方」の一例として、本文で取り上げられている働き方を本文から10字前後で言葉を抜き出して「～働き方」としてまとめなさい。

問六 筆者の主張として誤っているものを次から選び、番号で答えよ。

- ① 一九九〇年代以降、地方の商店街の多くが生き残りをかけて大型ショッピングセンターとの競争を迫られた
- ② 小規模の小売業者を守るための法律が見直され、自営業者たちは以前よりも国からの支援を受けやすくなつた
- ③ 一九九〇年代の大学生は就職の道が閉ざされ、安定した企業で一生働くより、やりがい重視の労働觀を持つ者が増えた
- ④ 二〇〇〇年代に入り、若者たちが仕事にやりがいを求めるには多くの場合劣悪な労働条件が伴うことが明らかになつた

問題四

次の文章は、『蜻蛉日記』の一部です。左記の説明文を読んだ上で、問い合わせに答えよ。

かくはかなながら、年たちかへる朝にはなりにけり。年ごろあやしく、世の人のする言忌などもせぬところなればや、かうはあらむとて、起きて、みざり出づるままに、「いづら、ここに」、人々、「今年だにいかで言忌などして、世の中こころみむ」と言ふを聞きて、はらから^Bとおぼしき人、まだ臥しながら、「もの聞こゆ。天地を袋に縫ひて^C」と誦ずるに、いとをかしくなりて、「さらに、身には、『三十日三十夜はわがもとに』^Dと言はむ」と言へば、前なる人々笑ひて、「いと思ふやうなることにもはべるかな。おなじくはこれを書かせたまひて、殿にやは奉らせたまはぬ」と言ふに、臥したりつる人も起きて、「いとよき」となり。天下のえほうにもまさらむ」など、笑ふ笑ふ言へば、さながら書きて、小さき人^Eして奉れただれば、このごろ時の世の中人にて、人はいみじく多くまゐりこみたり、内裏へもとくとて、いと騒がしげなりけれど、かくぞある。今年は五月二つあればなるべし。

兼家 年ごとにあまれば恋ふる君がためうるふ月をばおくにやあるらむ

とあれば、祝ひそしつと思ふ。

(説明) 作者は、平安中期藤原氏の最高権力者となつた藤原兼家の妻である。この日記はその結婚生活を書いたものである。

左記の文章は、結婚生活十六年目の正月の記事である。兼家はおらず、彼女は妹や侍女たちと過ごしている。

問一 傍線部①～③の平安時代の古文としての読みを書きなさい。

① 言忌

② 天地

③ 三十日三十夜

問二 傍線部A「世の人のする言忌などもせぬ」の内容として適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① 世の中の人々が行う初詣もしない
- ② 私の周りの人々のように呪文も唱えない
- ③ 世の中の人々が気を付ける不吉な言葉を言わないこともしない

問三 傍線部B「はらから」の意味として適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① 父が同じ兄弟・姉妹
- ② 母が同じ兄弟・姉妹
- ③ 徒弟・徒妹

問四 傍線部C「天地を袋に縫ひて」の本歌は「天地を袋に縫ひて幸ひを入れてもたれば思ふことなし」という寿歌の一部である。妹が誦したことに対し、作者はどのような心境になつたのか。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- (1) 楽しい
- (2) 悲しい
- (3) 憎らしい

問五

問四の寿歌を参考にして傍線部D「三十日三十夜はわがもとに」の後に続く歌の言葉を書け。

問六

傍線部D「三十日三十夜はわがもとに」とは、誰が誰のもとに来ることを望んでいるのか。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- (1) 妹が作者のもとに
- (2) 作者が兼家のもとに
- (3) 兼家が作者のもとに

問七 作者の侍女たちは何を提案したのか。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① この歌をみんなで一緒に歌おう
- ② この歌を兼家にさし上げよう
- ③ この歌を家の外に貼りだそう

問八 傍線部E「小さき人」とは誰のことか。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① 道長
- ② 道綱
- ③ 道隆

問九 傍線部F「このごろ時の世の中人」とはどういう意か。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① 最近、噂になっている人
- ② 今を時めく権勢の人
- ③ 最近の世の人々

問十

傍線部G 「年ごとにあまれば恋ふる君がためうるふ月をばおくにやあるらむ」は、兼家の返歌である。どのような意味か。適切なものを一つ選び、番号で答えよ。

- ① 每年毎年、私のあなたへの恋心が増す一方なので閏月があるのでしょうか。
- ② あなたの恋心が年ごとに余ることになるのであなたのためには閏月があるのでしょうか。
- ③ 閏月が各年ごとにあるのは、私達の思いがあふれているからではないでしょうか。

「新編日本古典文学全集 土佐日記・蜻蛉日記」小学館1995年10月